

双子都市を繋ぐまちづくり

1. 福岡と博多—二つの性質の異なる町

福岡市は、玄海灘に面し市内を八つの河川が潤す「水都」として古くから栄えてきた。中世には、博多商人が活躍都市となり、近世・江戸期の福岡城主・黒田長政によって、那珂川の中洲を境に商人の街「博多」と武士の街「福岡」が並在する双子都市がかたちづけられた。明治の市制施行の際、市名を「福岡」、駅名を「博多」に双方の名を残したことはよく知られている。現在でも、博多駅が位置する伝統と現代が交差する粋を感じさせる旧商人街を「博多部」、天神・福岡城址周辺の都会的で洗練された旧武家屋敷街を「福岡部」と呼び、中洲を仲介役に「博多部」と「福岡部」の共存が福岡の魅力を創り出している。

2. 歴史資源を活かし、地域性がある町を創り

歴史資源を活かし、もっと地域性がある福岡を創るために、以下を提案する。

①都市のロゴマークに双子都市性を添付する

現在、福岡市の使用されているロゴマーク(図1)に基づき、左下の菱形を「福岡部」代表する青色にし、右下の菱形を「博多部」代表する紫色にし、上の菱形を二色に交差する(図2)。これは現在の福岡市は歴史、文化、芸術、風土などの価値軸の中で互いの都市がそれぞれに有する特徴を基盤としつつも混在する状況へと変化していることを指す意味である。



図1 現在使用されているロゴマーク



図2 提案するロゴマーク

②歩行者用公共サインに双子都市性を添付する

交通・通信機関の発達に伴い、人々の生活の活動範囲は広がり、しかも多様になってきている。市民や観光客は周辺の地理、情報などを把握するため、歩行者用公共サインが網のように道路の沿路に配置されている。

次は「福岡部」の代表できる歩行者用サインと「博多部」を代表できる歩行者用サインを提案する。二つのサインは形状、機能などほぼ同じで、上述の「福岡部」代表する青色と「博多部」代表する紫色を用い、区別する。また、配置分布は中洲を介し、西は「福岡部」の代表サインを配置し、東は「博多部」の代表サインを配置する(図3)。

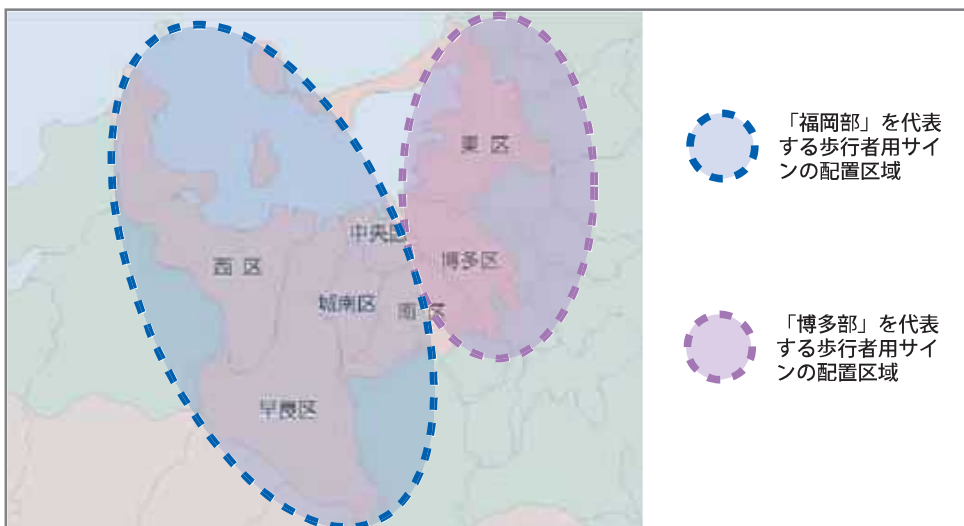


図3 配置分布図





図4 「福岡部」に配置する歩行者用サイン案

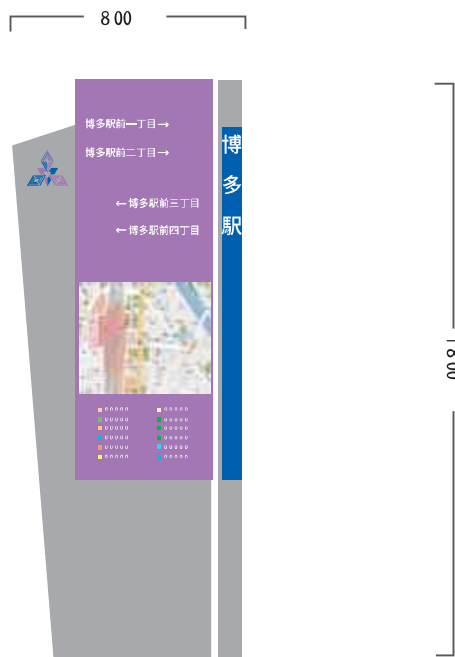


図5 「博多部」配置する歩行者用サイン案

③ 歴史地域資源としての文化遺産を活かす

「福岡部」にある福岡城や、「博多部」にある御供所などの歴史文化遺産は我々にとって大変貴重な物であり、また、福岡のシンボルもいえる。昔から残った文化財は大事にしなければならない、そのため、維持、管理の費用がたくさんかかると思う。これらの文化財を活かし、定期的なイベントやコンサートを開催し、その収入はメンテナンスの費用になればいいと思う。さらに、これらの活動を通して多くの市民さん、観光客に福岡の歴史、文化を伝えることができる。

